

もし、あの時…

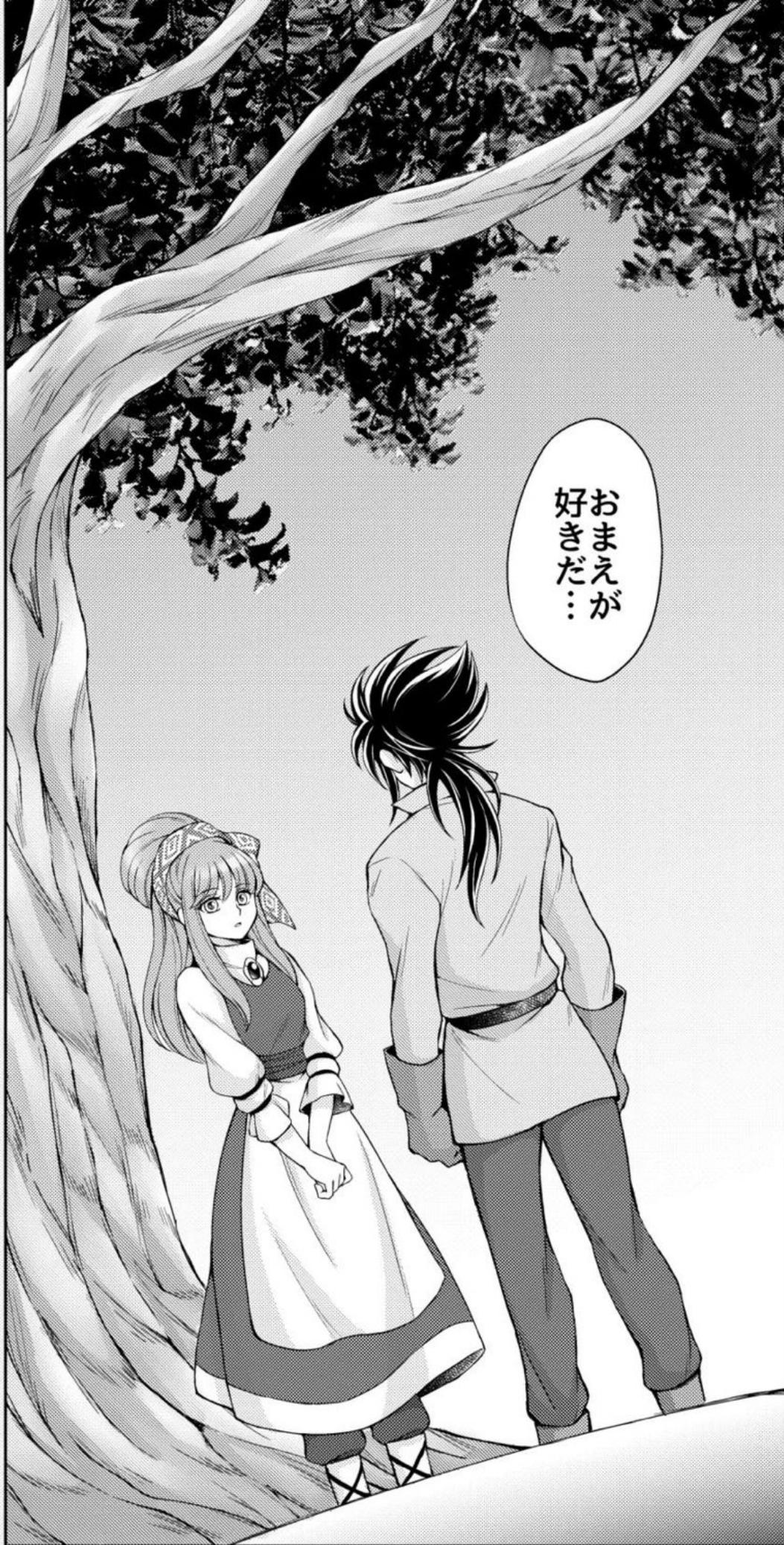


正直に想いを
伝えていたなら…



未来は変わっていたのだろうか…

おまえが
好きだ…





だが…私は…

直ヒル様
の配慮で
あれは断り
の難しう
すは…
だるう…



え……？



できる事なら
これからここで
共に暮らしたいと
思っている

だから…
ワハラ宮での
話は考え直し…



違うの…



す…すまない！
泣くほど嫌だった
のなら…

…!?
ポロポロ



嬉しいの…

わたしも…
あなたのこと
好きだったから…

身分が違いすぎて
ずつと言えな
かったけど…

…でも



こんなわたしに
目をかけてくだ
いために様

ワルハラ宮に仕える
ことはやっぱり
お断りできないわ…



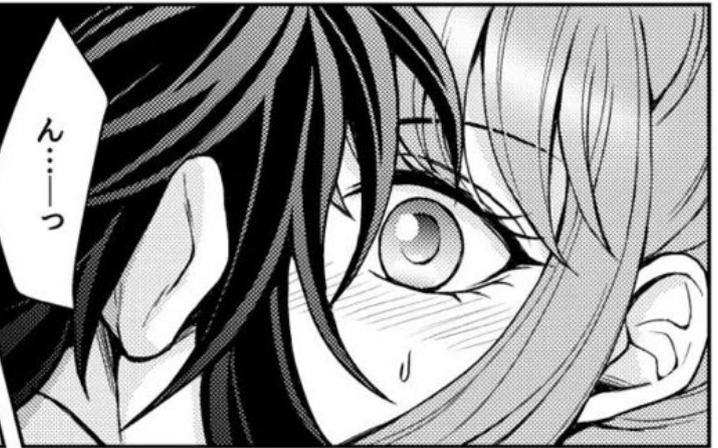
え…!?
ちよ…っ



フロディ?



ごめんなさい…



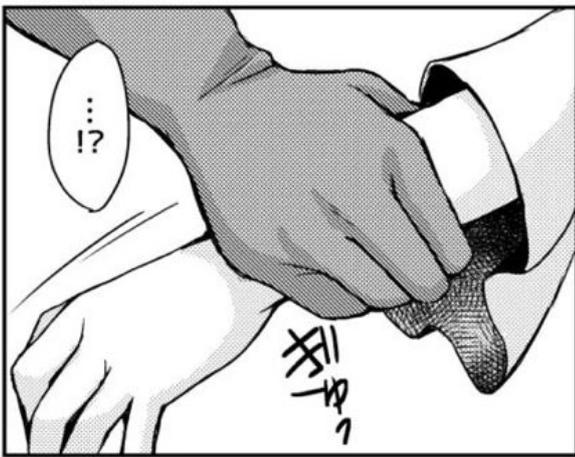


...それも
そうだな...

悪かった...



こんな所じゃ
イヤよ...!



...!?

ギョッ

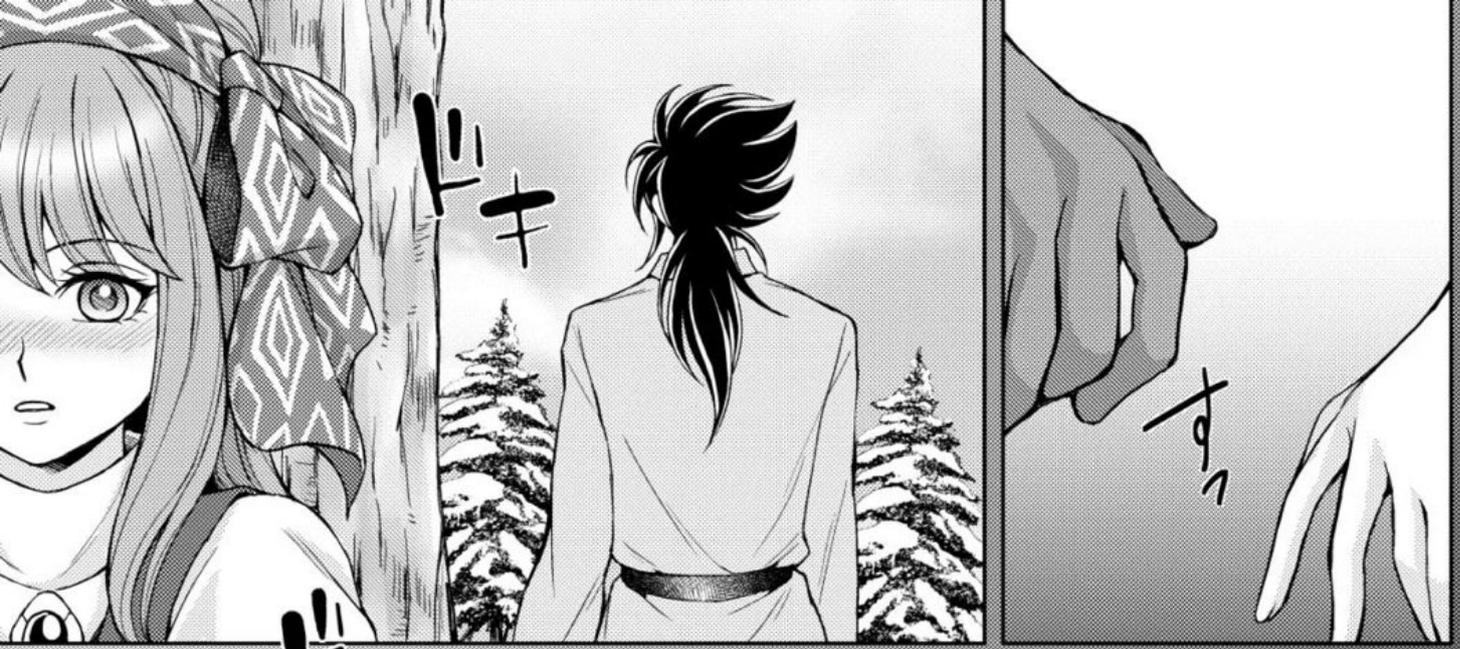


今晚...私の
部屋...おいで

少し話を
しよう...



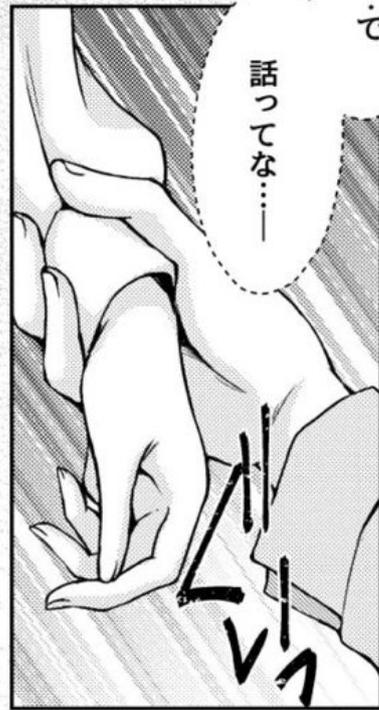
ギョッ







…!!



話ってな…

…で



来ないのかわからないの…

もう…



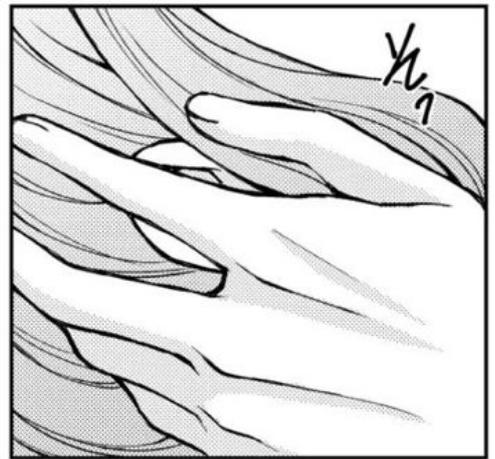
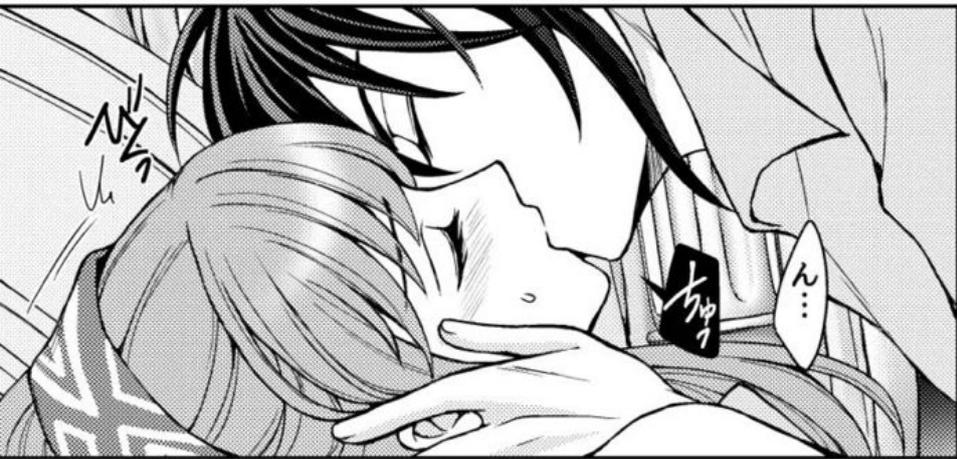
ドキ



する…って…
…そういうこと
…だよな？

わたし初めてだから
どうしたらいいのよ…
分らないのよ…

そうじゃない…
けど…その…



ダメか…？

何も怖がなくて
いい怖がる…

私はおまえの
最初の…
が欲しい…

…ダメ
じゃない







フロディも…緊張して…る？

何で…？

さつき…手が震えてた…

…当たり前だろ…

もつと聞かせてほしい…



あなたの「本当」を…

わたしと一緒にね…

笑うところかよ…！

だって…



まあ…そんな余裕ももう無くなるだろうがな…

え…？

リファイア…おまえ…喋りすぎ…

ご…ごめん…なさい…！

嬉しいんだもの…

もつと知りたいから…





身体のナカが
まだ熱いの…

もう…怖く
なんてない
から…



…それは自然
な身体現象だ
心配ない…

そ…そう
なの…?



怖いのか？

今日はここ
までにして
おくか…？

ううん…



ん…っ

ちゅ
しゅ
しゅ

…お願い
…してで…





あ…っ

リフィア…

はあ

ん…っ

はっ



すごく
痛くて…

フロディ…っ

本当は…

……っ



はーっ

でも…

はーっ



苦しんで…

ふ…

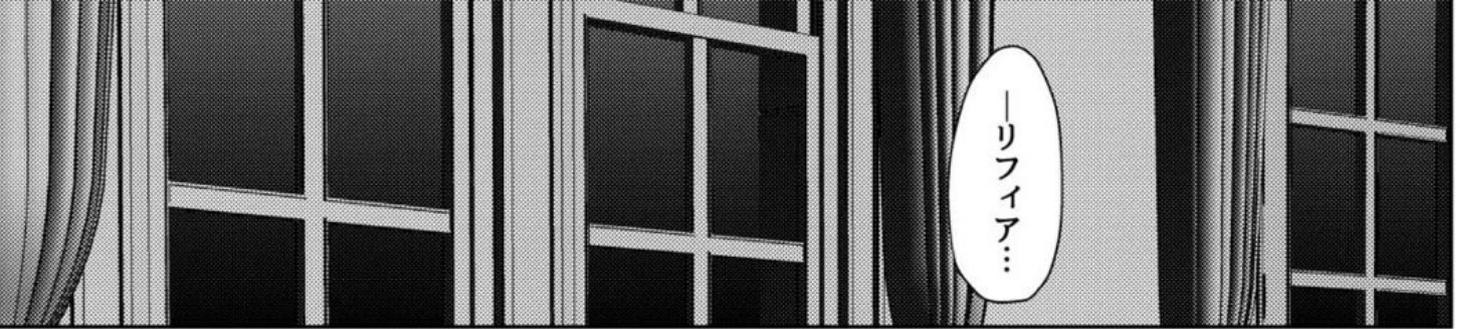
何も考えられ
ないくらい

ん…っ

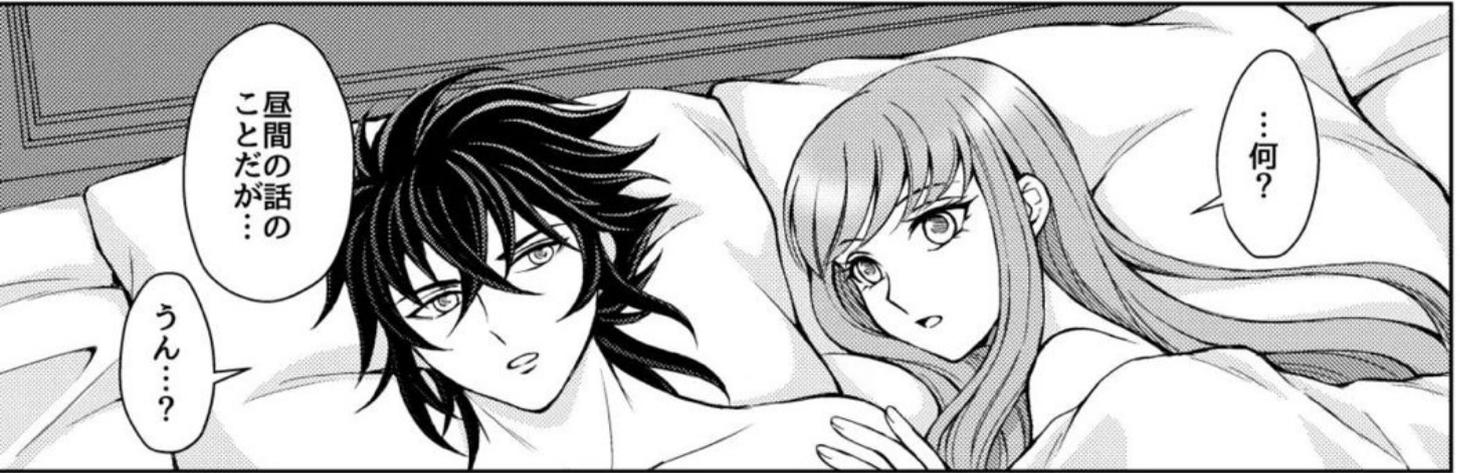
あ



わたしの気持ち
は
いたの…
満たされて



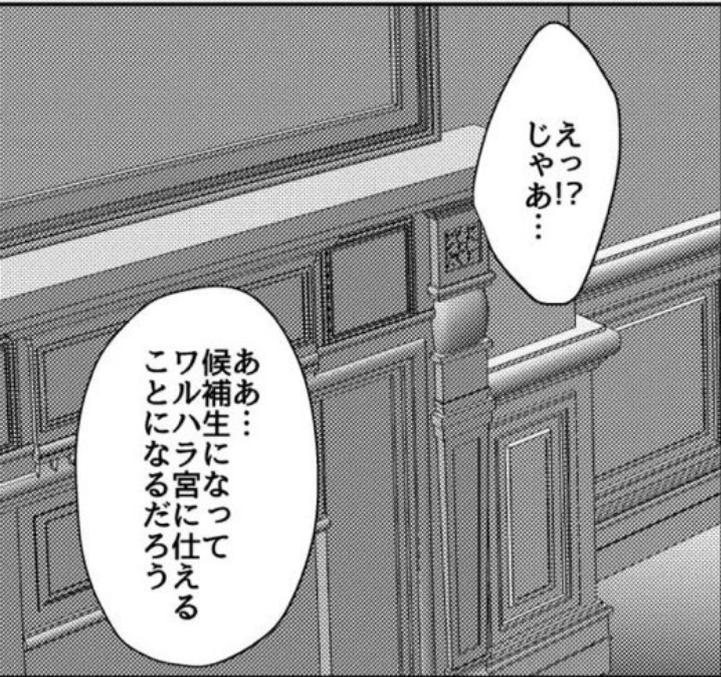
リフィア…



屋間の話のことだが…

…何？

うん…？



えっ!?
じゃあ…

オレは神闘士を
目指そうと思う

…!?

ああ…
候補生になって
ワルハラ宮に仕える
ことになるだろう



ずっと前から
考えていたことだ

おまえが
ワルハラ宮に
入ると聞いて
決心がついた

アスガルドを
守護するのが
神闘士の使命…

だが…オレにとっては
おまえも同じくらいに
大切に思っている



そうならば
ずつとおまへの
理由が
いられる

とは言っても…

こんな不順な動機で
なれると決まった
わけでもないけどな

大丈夫よ!!

…!?



なれるよ!
フロデイなら
きつと…!!

何でそう
思える…?

何となく
だけど…

何となく…

立派な神闘士
になれるの!
気がするの!

気がする…



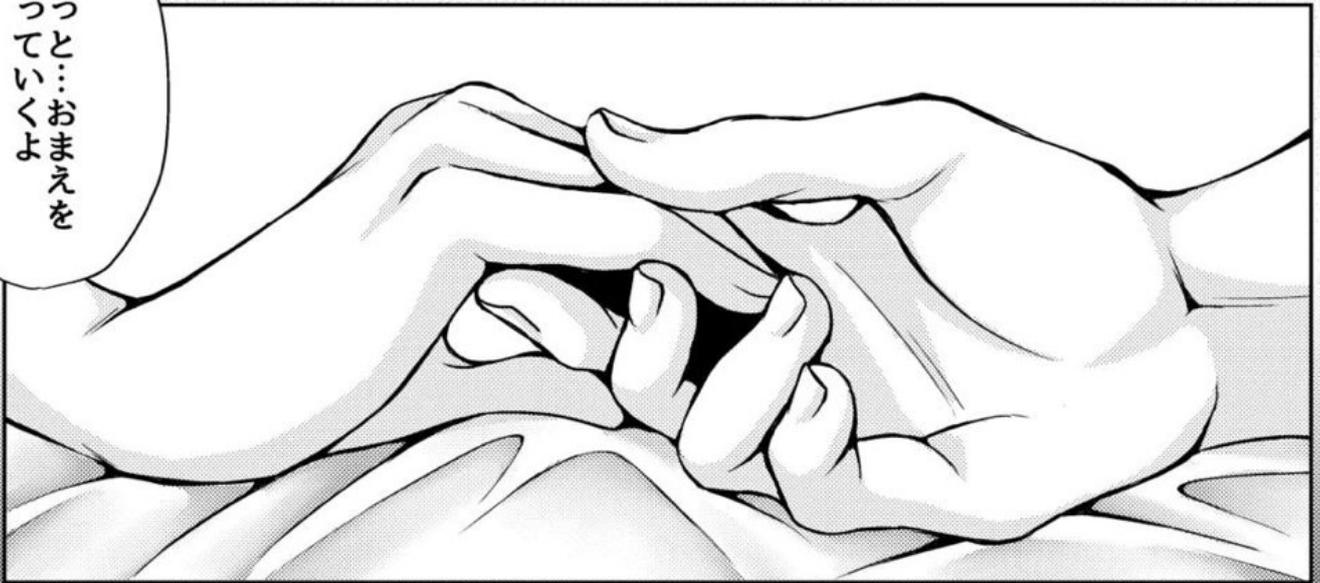
でも…本当に
そうならたら
アスガルドも
ヒルダ様も…

わたしのことも
守ってくれる?



当たり前だ…

ずっと…おまえを
守っていくよ



どうかずっと
側にいて…
わたしを
離さないで…



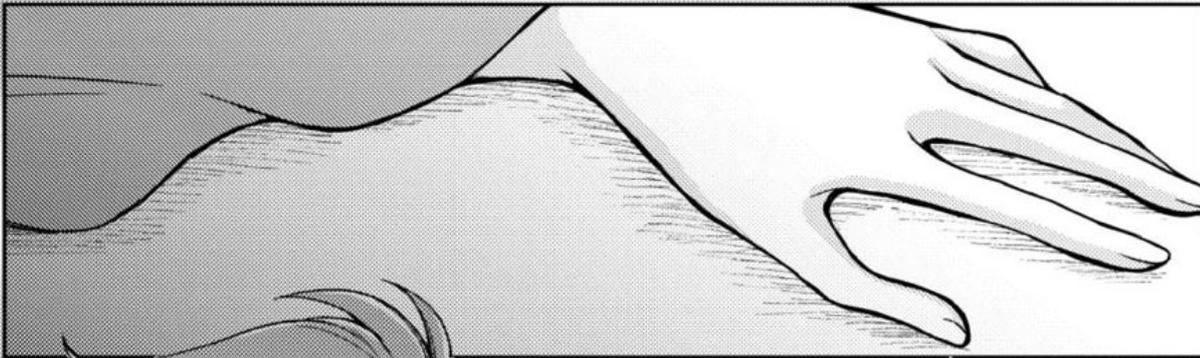
そんなささやかな願いは
時代の流れによつて
かき消されていった…

神に与えられた
災いの指輪がし

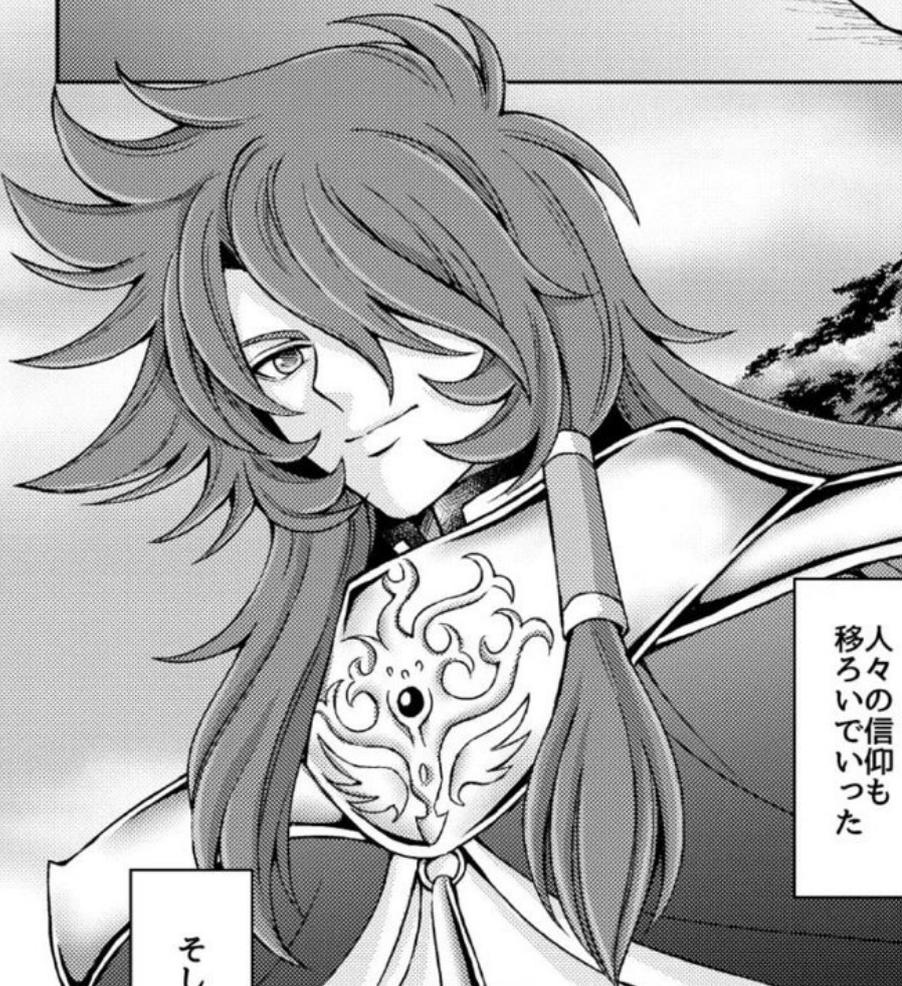
アスガルドは激動の
時代を迎える

形を失った後も
指輪はその呪いを
増幅させ

最後の所有者と
なつた者はその身体
を蝕まれていった…



ヒルダ様が
病に伏された



アスガルドの情勢は
めまぐるしく変化し

人々の信仰も
移ろいでいった

そして…





フロディは
神闘士に
任命された



あれほど
願っていた
のに……

わたしは
素直に
それを
喜べなかつた

これは本当
に……
正しいこと
か……
この違和感
は……
何なのか……

数日前

—え……!?

わ……
わたしが……
ですか……?

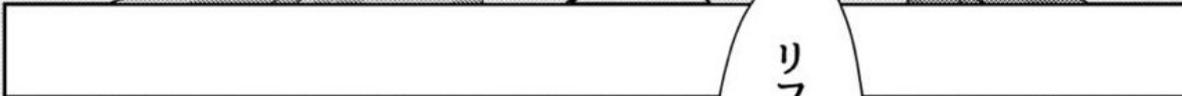




わたしにしか
出来ないこと
がある…

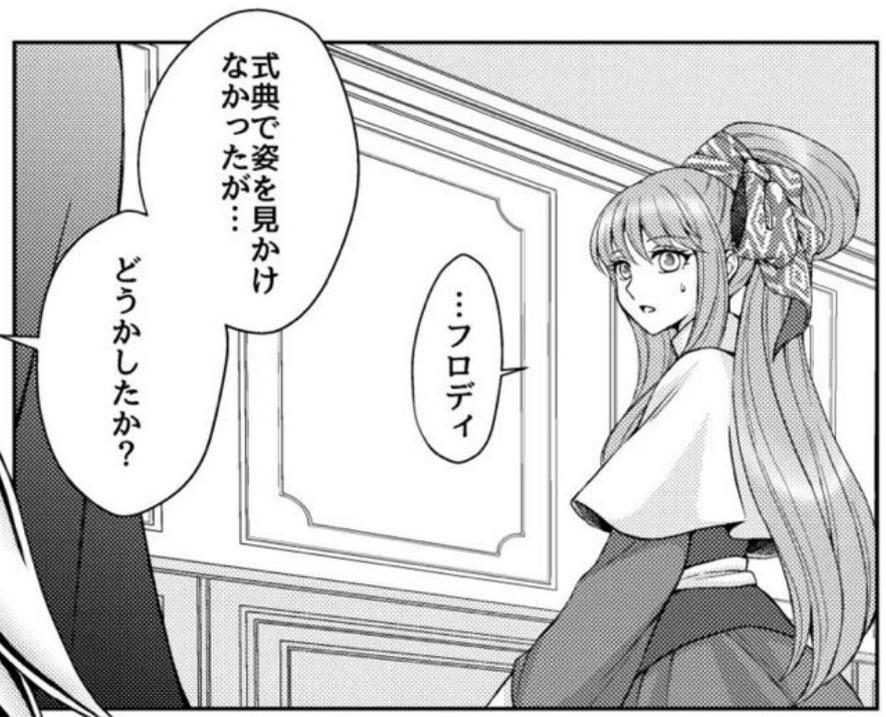
—そうヒルダ様
に告げられた…

何も持たない
—非力なわたしに
—体力が来ない
—何ができるか…



リファイア…!?

はっ
…!?



式典で姿を見かけ
なかつたが…

どうかしたか？

…フロディ

えーと…その…
少し気分が悪くて
途中で退席させて
もらったの…

大丈夫
なのか…!?

え…ええ
もう平気よ

そうなら良いが…

この姿をおまえに
一番見せたかつた
からな…残念だ



分かって
くれる…

わたしは…

アンドレアス…さま…
のやっっていることが
正しいとは思えないの

神闘士になれたのは
だとも誇らしいこと
だと思ふの…でも…

フロディなら
きつと…



ねえ…
フロディ

何だ…?



どういう事だ…

お願い：
彼に加担：
しないで！

あなたの力は
正しいことに
使ってほしいの！



何を言っている？
アスガルド様は！
オーディーン様の
地上代行者を任せられた
偉大な御方だぞ！！

あの方の行いが
間違っている
とでも…！？

そのうえ
オレに神闘士の
地位を捨てると
いうのか！！

あなた達は
騙されたよ！



おまえが何を
言っているのか
分からない…

神闘士になることは
オレたちの願いでも
あつたはず…



このままでは
アスガルドが
滅んでしまうの…

分かって
フロディ！

違うわ…

わたくしが願った
のはこんなこと
じゃない…!!



—リファイア

…と言ったか

…はい?

今はヒルダ様の
侍女をしているの
娘だ…

確か君とは
幼少の頃からの
付き合いだからの
間合いだ…

え…ええ…
それが何か?

私はどうやら
彼女に疑われて
いるようですね

「アスガルドを
滅ぼす厄災」などと
周囲に触れまわって
いるそうだし…

…!?

仲の良い君なら
何かの間にさされて
思っているのだと
思うのだ…

そうですねか…
しかしこのまま
見送るわけにも
いかないでしょう

君には彼女の
動きを監視して
もらいたい

監視…!?
そこまで
せずとも…

もし…

い…いいえ!
そのようなこと
は何も…!

彼女が
謀反を起こす
ようなことが
あれば…

その時は…!

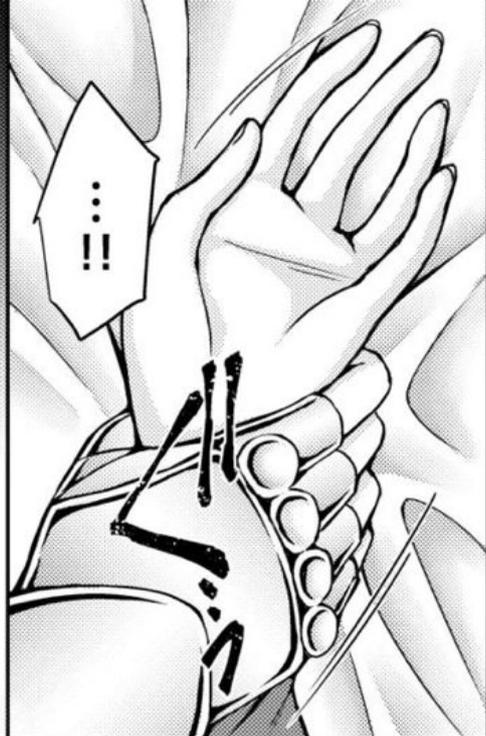
分かりますね?
フロディ…



お…仰せの
ままに…







おまえを守ると
約束したのを
忘れたか...?



私から
離れるな

ずっと私の
側にいろ



私……



違う……



や……

ん……

ん……

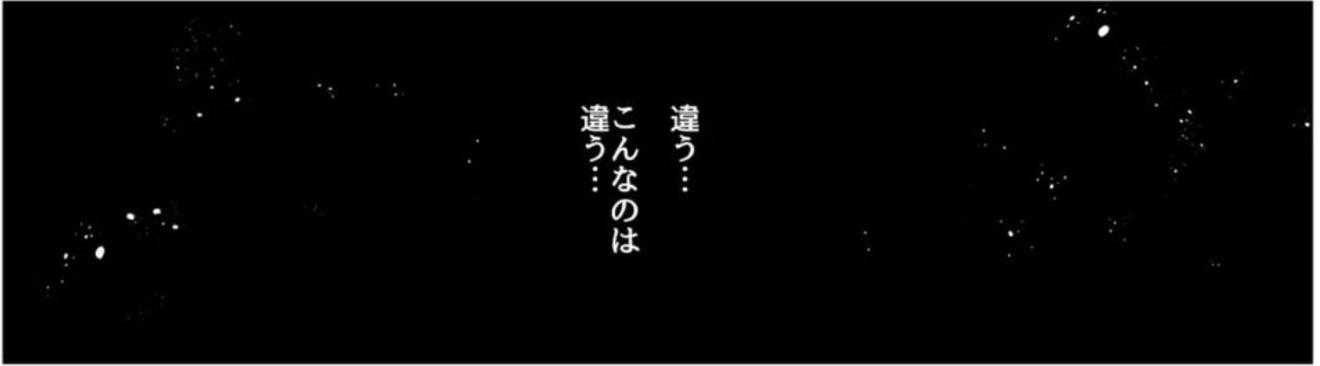


違う……!



フロディ…!

い…や…っ



違う…
こんなのは
違う…



わたしを
守りたいと
あなたに
うたうから
嘘は…

リフィア…



わたしは…



だけど…

わたしは あなたを拒めなかった…

おまえを
守れるのは
私だけだ…は





このまま

ただ守られながら
日々過ごしていくことが

わたしにとっては
幸せなの……？





わたしはどうしたらいい...？



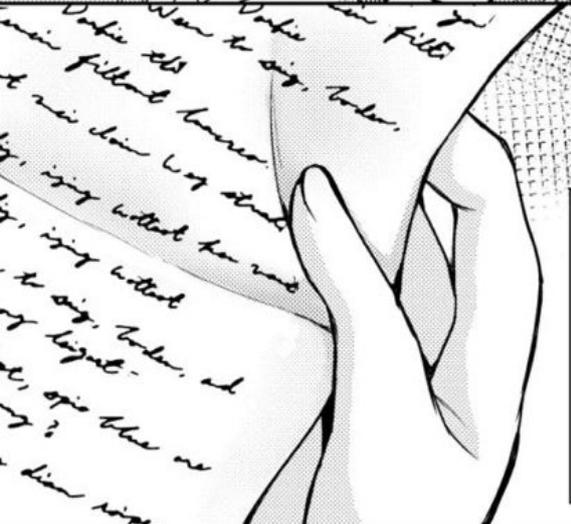
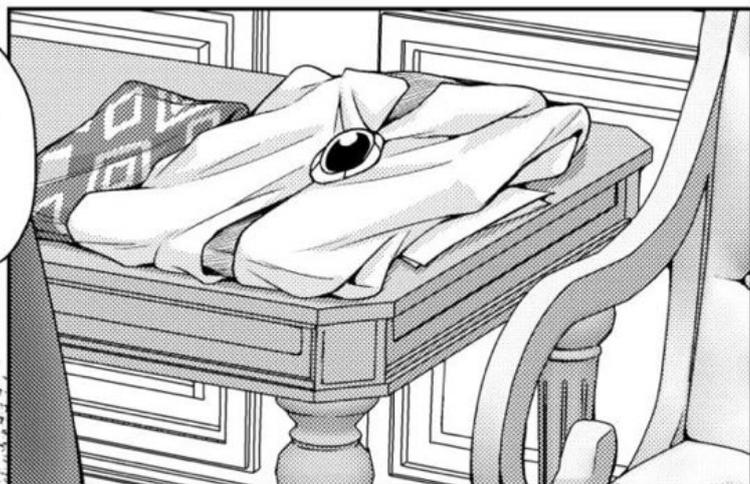


フロディ...

いないの...?



手紙...?



フロディの
言葉に
嘘はない

ただ直接的な表現
ではないけれど
わたしはそれと
わたくしはそれと
唐突に理解して
しまった...
し...

そこには対する
わたしに
わたしの
謝罪の
まじり
が
簡潔に
いた
て



わたし
自分
は
人
質
な
の
だ
!...と



彼の「正義」を
歪めてしまった
のはわたしだ…

このまま守られて
いるだけでいいの？

彼はそれが間違いだと
気づいてくれるだろう
守ろうとするだろう

このままでは駄目だ…

わたしは
どうしたら
いいの…？

わたしに何が
出来るの…？

アスガルドの未来を—…
これはあなたにしか出来ないことなのです…



出来ることが
—…あるの？

わたしにも



…ヒルダ様

オーデイン様

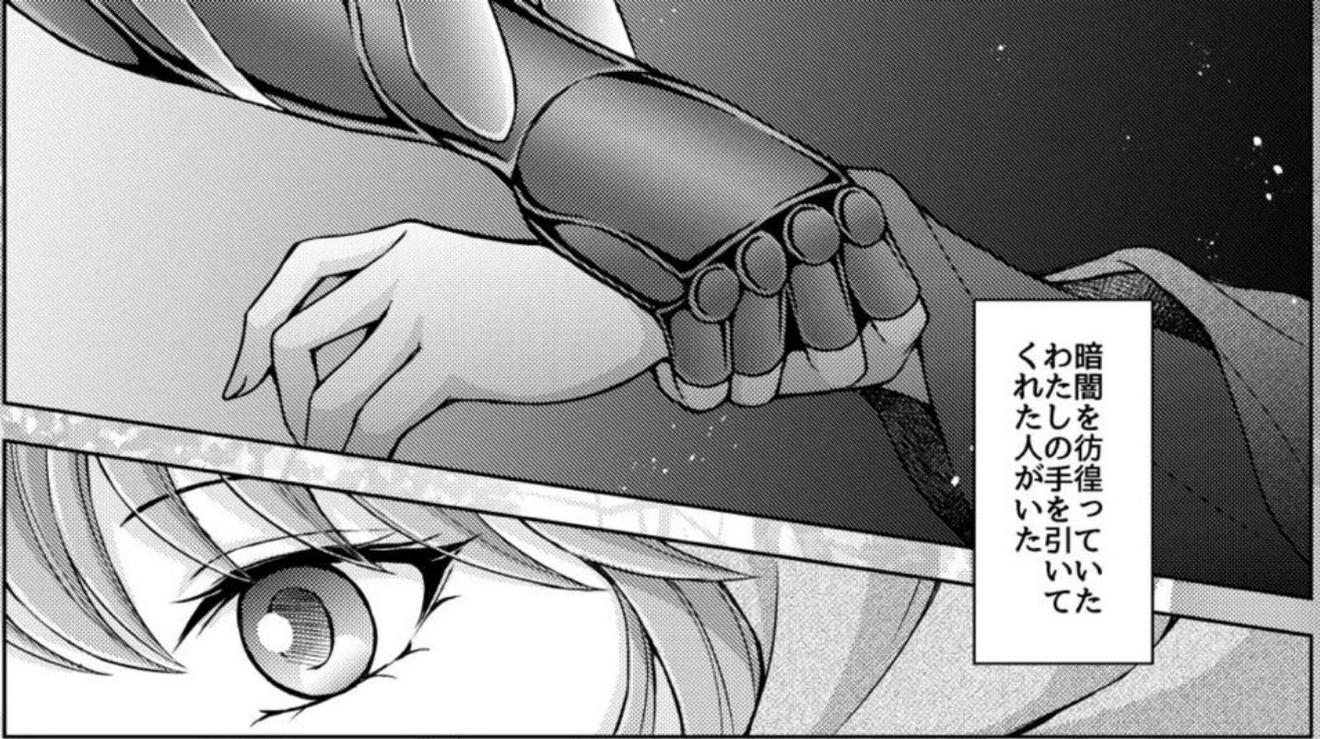
どうかわたしを
お導きください…



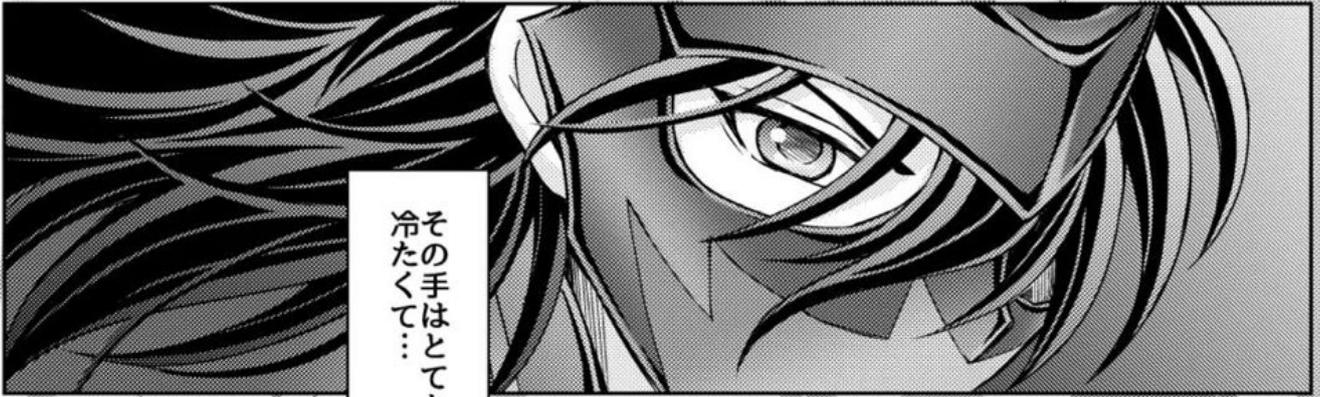
これより後^{のち}
わたしは記憶を
一部欠いていた



わずかに残って
いたのは……



暗闇を彷徨つて
いた
わたしの手
が引いた
人



その手は
とても
冷たくて…

フロディではなかった
のは確かだった…





お願い…わたしと
一緒に闘つて…!!

わたしは自分の
信じる道を
進むだけ…

あなたがそう
したように…



ねえ…
フロディ



できるなら
あなたの側に
いたかった…

でも…
わたしは…

リファイア…



なぜ私の元を
去った…



側にいらねば私が
守り切ると約束した
りだろ!?



フロディ…



わたしは自分の
成すべきことを
するだけ…

あなたに
守ってもらわな
くても大丈夫よ

—そう… 未来は変わらない